



愛知県保護者会たより

愛知県保護者会 第22回定期総会及び懇親会開催！

平成27年5月30日（土）国際センターに於いて、日本体育大学愛知県保護者会会則に基づき、「平成27年度 第22回定期総会」が開催されました。

定期総会には保護者46名の他、ご来賓として本部保護者会より福島隆史会長、愛知県同窓会より川原三男副会長、藤原照明理事長及び河合朝晴講師、日体大ファンクラブ愛知の会より山口博副会長、鈴木雅博前代議員、竹松親司顧問及び加藤和美様、大学より体育学部社会体育学科 山本 博教授と学生支援センター健志台事務室の石川優志様にご出席いただきました



本部保護者会 福島隆史会長



総会の様子

総会は議案書に沿って議事進行が行われ、平成27年度新会長等の役員改選まで無事承認を得ることができ、今年度の新たな体制が整うこととなりました。記念講演会では、山本教授による講演が開催されました。休憩の後、健志台事務室の石川様による「学生生活と就職対策について」、愛知県同窓会の藤原理事長並びに河合講師による「地元就職対策の具体的な取組」を熱い気持ちを込めて話をさせていただき、保護者の方々も刺激を受け参考となりました。

総会閉会後は懇親会が行われ、講演をいただいた大学関係者、愛知県同窓会及び保護者の方々の他に、ファンクラブ愛知の会の皆様を交え、日体大の話題等で大変盛り上がりました。さらに新入学された保護者の皆様に一言コメントをいただき、また在学保護者の方々も、個別に学生生活や就職対策についての質問や子供の部活動等の情報交換などして有意義な時間を過ごしました。今回残念ながら出席できなかった保護者の方々も、次の総会には是非ご出席いただき大学、同窓会からの多面的な情報を聞く機会を得て頂くと共に懇親を深め子供たちの将来のために役立てていただければ幸いです。

今後も愛知県保護者会のご支援をよろしくお願いいたします。また、今年度も色々な行事を計画していますので、是非ご参加していただければ嬉しく思います。

文責 2年生副会長 石井 勝
写真 会計 大杉 茂



総会後の記念撮影



3年生副会長 深見 和義

「平成 27 年度日本体育大学愛知県保護者会 第 22 回定期総会 記念講演会概要」

講師 体育学部社会体育学科 教授 山本 博

本年度の、定期総会記念講演会の講師には、体育学部社会体育学科の山本 博教授をお招きしました。山本教授と言えば、1984 年のロサンゼルスオリンピックのアーチェリー競技における銅メダリスト、及び 2002 年のアテネオリンピックの銀メダリストという、輝かしい記録を保持されているのは皆さんもご存知のことと思います。

山本教授は、日体大の職員になられて 13 年になるそうですが、保護者会での講演は、今回の愛知県の総会が 2 回目ということです。名古屋までお越しいただいたことに、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

講演では、最初にアーチェリーに興味を持ったきっかけの出来事からお話しされ、その当時の苦労話、日体大への入学、その後の就職への道のりへと続きました。



体育学部社会体育学科 山本 博教授

(以下 山本教授)

私がアーチェリーを始めてから、国内ランク 1 位もしくは 2 位の時には常に世界しか見ていませんでした。4 位以下では世界を見ることすらできないため、4 位や 5 位なんて想像したこともありませんでした。今いる自分のポジションが、よりモチベーションを上げていました。

しかし、自分は決して超一流ではありません。私はオリンピックに 10 回挑戦し、5 回出場しましたが、メダルは銅と銀の 2 回しか獲れませんでした。超一流と言われるのは、金メダルを 3 連覇した方々のことだと私は思います。

本来アーチェリー競技は、90m、70m、50m、30m の総合得点で競い合っていました。1972 年に国際試合の統一ルールとして、70m のみとなりました。70m に決まった理由は、矢を飛ばした時の弧が、テレビから見て一番美しく映るからだと言われていますが、この決定により、90m、50m を得意とする選手は大変苦勞することになりました。

金メダルを獲得できる人は、ジグソーパズルに例えるならば、すべてのピースが埋まった人だと思います。自分のレベルを上げるために最高の練習をしなければならず、また最高の練習をするためには最高の体調を維持しなければなりません。しかし、いくら人一倍努力して練習してもピースが埋まらない人もいます。すべてのピースを埋めるためには、相性や運も必要になる時もあります。イチロー選手と仰木元監督との出会いは、まさにそれだと思います。



学生との関わりの中で相談を受けることも多々ありますが、部活動にしろ、就職活動にしろ、あまり簡単に手を差し延べないようにしています。学生自身が色々努力した上で、まずヒントを出します。手を差し延べるのは最後にしています。

まず、足りない部分を自分で見つけること、そして、目標を達成するために自分が変わらなければならないことが大事なのです。

スポーツで言うならばオリンピックに出場するため、就職活動で言うならば一流企業に入社するために、今後何をすれば良いかは自分自身が一番分かっているはずですが、しかし、自分を変えることができる人と、できない人がいます。その目標が自分では無理だと思いと、自分を変えることを諦めて、目標を楽な方に変えてしまう人がいます。対して、自分のレベルを認識し、今からでも目標を変えることによって新たな目標設定ができる人もいます。

私が考えるスポーツの良さは、必ずしも勝利が保証されないことだと思います。どんなに頑張っても1位になれるとは限らない中で、誰もが勝利を夢見て努力をしているのです。

最後に、日体大での4年間は本当に身になる4年間となります。社会人になってから日体大出身であることを、自慢できるような学生生活を送ってほしいと思います。

2020年には東京オリンピックが開催されます。日体大としましては、ボランティア（無償）で職員、学生共々、総出で成功に向けて協力していきたいと思います。



[愛知県同窓会 就職対策委員会](#)

[河合朝晴講師](#)

以上が、メダリストである山本教授の記念講演会の概要でした。講演後の質疑・応答では予想以上に多くの質問等がありましたが、山本教授はすべての質問に丁寧に答弁してくださったことに感謝いたします。誠にありがとうございました。

尚、記念講演会の後には講演会第2部として、学生支援センター健志台事務室の石川優志様より、学生生活等全般に関する講演と、愛知県同窓会の藤原照明理事長と就職対策委員会の河合朝晴講師より、地元愛知県の就職対策についての講演をいただきました。特に河合講師からの熱いメッセージは心に残りました。

共に活発な質疑・応答もあり、盛会のうちに終了しました。講演をいただきました講師の皆様、誠にありがとうございました。



[健志台事務室 石川優志様](#)



[愛知県同窓会 藤原照明理事長](#)



記念講演を聴いて

平成 27 年度 監査 澤田 和之

期待に違わない素晴らしい内容の講演でした。60分という時間の中で一瞬たりとも無駄のない、かつ、含蓄のある余韻の残る講演でした。

私は現役の時、仕事柄多くの講演を聴いてきましたが、これまでに経験した中で一、二を争うほどの充実した内容の講演だったと思います。我が子と接する上でたいへん参考になりましたので、以下に印象に残った言葉を紹介します。

「凄いことをさらっとやる。4年間凄かったけど勝負の一瞬はさらっとやったね。」

「オリンピック選手にもっとこんなことをしておけば良かったという人はいない。」

「スポーツの良さは勝利が確約されていないことにある。」

「自分の子どもは客観的に視ているつもりでも愛くるしさが残る。そこに家庭教育と学校教育の連携が必要となってくる所以がある。」

「大切なことは目標設定。自分を変えることができない場合は目標を変える。満たされないことを満たそうとすることが大切」

「満たされていると足りない部分がわからない。余りにも手助けすると自分を満たそうとする意欲の障害となる。満たし過ぎないこと。10の内7を満たせばいい・・・。」

「満たされているから足りない部分がわからない。過去に日体大は深沢の体操競技場が全焼してしまったことがあるが、そのことが優秀な成果をもたらした背景にあった。不遇の中で集中力や効率性を求めた結果である・・・。」

山本先生ご自身の経験なども随所に散りばめ、一流の競技者、一流の指導者として歩んで来られた先生ならではの機知に富んだ内容が多く、受け売りでない山本先生の心の叫びを聴くことができたようでとても感銘を受けました。このような良い指導者がいる日体大に改めて愛校心を強くするとともに、山本先生の指導を受ける子どもの幸せを考えずにはられませんでした。

平成 27 年度 会計 大杉 茂

まず、第一印象に残った言葉は、スポーツは「競争（勝敗）を第一とするもの」と、「楽しみを追求するもの」とに、分けられると述べられていた事です。山本先生自体は皆さんもご承知通り現在も一線級で活躍しています。勝ち負けよりも楽しみを優先することにより、年齢や性別・障害の有無に関わらず、みんなでスポーツを楽しむ事ができる事に関して多くの事を語って頂きました。自分の子供はスポーツが好きで日体大に行き教員を目指していますが、果たしてスポーツが嫌いな子供に接した際は、どのようにしたらスポーツを好きになってもらえるのか？疑問の念も感じます。ですが先生は、まず教える人がスポーツを大好きになり、その思いを根気よく相手に伝え、強く、熱く思う気持ちがあれば必ず伝わり好きになる、きっかけになると言っていました。自分自身、今地域で体育委員をやっていますが、参加率が悪いのが現状です。今後は地域の方が誰でも参加出来るスポーツを行い根気よく・強く・熱く思いスポーツの楽しさを皆で分かち合いたいです。



愛知県保護者会 平成 27 年度会長就任の挨拶

平成 27 年度 会長 高野 徹

「会長就任にあたって」

愛知県保護者会の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

この度、平成27年度定期総会にて愛知県保護者会会長に就任することになりました高野と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

新入生の保護者の皆様、ご入学おめでとうございます。また、在学生保護者の皆様には、日頃より保護者会の活動にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。

保護者の皆様をはじめ、愛知県保護者会役員・大学関係者・愛知県同窓会の皆様のご支援とご協力いただきながら職責を全うできれば幸いと考えております。

息子は体育学部体育学科に所属し、水泳部水球で3年間頑張っています。今は就職活動に直面することとなり、皆様から暖かいご支援をいただきながら将来を見据え、どのような仕事が自分に向いているのか模索しているところだと思います。

愛知県保護者会の役員となり4年目となりますが、いつも感じるのは、保護者の皆様をはじめ日体大関係者の皆様は、とにかく日体大が大好きで熱い方たちが多いということです。大学の知名度もあります。仲間意識が強く日体大の選手が活躍したり、テレビ等で話題になったりすると自分のことのように喜びます。日体大愛知県同窓会は先輩後輩の結びつきが強く、保護者会も地元の就職対策等で大変お世話になっております。また、保護者の皆様が熱いのは、それぞれの地域で活躍してきた子供たちを一番近くで応援してきたファンであり、スポーツを極めるための大学に入学したからだだと思います。その子供たちが遠く離れた日本体育大学に進学し、親の手を離れ生活することや将来の進路についての不安などは、私たち保護者にとって共通した問題だと思います。そう言ったことが一つでも解消できるよう大学等と連携をとり情報をお伝えするとともに、保護者の皆様からのご意見やご要望を大学等へ伝えていくことが保護者会の役割であると思っております。



平成 27 年度 高野 徹会長

また、総会出欠ハガキのアンケートでは、約2割の方が「ご自宅にインターネット環境がない」または「未回答」となっております。時代の流れですが、子供からの情報が少ない中、大学や部活の情報を確認したり、子供の成績を確認するのにインターネット環境が必須となっております。愛知県保護者会といたしましては、環境のない方へのご配慮も必要との問題意識もありますが、「日体大保護者会のホームページ」を活用した告知等の情報提供は、今後も推進していきたいと考えておりますので、まずは子供の成績確認のついでにでもご閲覧いただければありがたくお願い申し上げます。

最後になりましたが、今後の日本体育大学のますますのご発展と保護者の皆様及び学生の皆様のご健勝を祈念し、ご挨拶とさせていただきます。



新任役員 の 挨拶

平成 27 年度 1 年生副会長 山岡 洋海

向暑の候、皆様におかれましては、ますますご清栄とのこと拝察いたしております。

この度、日本体育大学に新入学致しました体育学部武道学科 柔道部でお世話になっております、山岡太郎の父親でございます。

息子は、小学校一年生から中学生まで大府市にある大石道場に通い、高校は一宮市の大成高校に通ってまいりました。大学でも柔道を続けていきたいと本人の強い希望も有り、より良い施設・環境等が充実している大学で将来の就職の事なども考えて日本体育大学に進学を決めさせていただきました。

今年度の副会長の大役を務めさせていただく事に、改めまして身の引き締まる思いで有ります。

皆様方のお力を頂きまして、精一杯務めて行く所存でございますので宜しくお願い申し上げます。

平成 27 年度 書記 加藤 美佐（1 年）

四月、体育学部に息子が入学し、私はこの度「書記」をさせていただきます事となりました。

親子共々ご指導の程、よろしくお願い致します。

さて、大学生になり全てが初体験、さぞ心細いだろうと気にかけておりましたが「もう寂しくないから来なくていい。」と言われてしまいました。環境に恵まれ充実した日々を送っていると察しました。親元を離れ日体大生として過ごす四年後が楽しみです。

子育ても終盤に入り最後の学生生活に関われる機会を与えて頂きました。これからの出会いを大切に、多くを学びたいと思っております。

平成 27 年度 幹事 荒川 喜峰（2 年）

本年度、幹事を務めさせていただきます荒川と申します。

保護者会の目的であります、本部との連携、子供の健全なる育成、会員の親睦を深め、緊密に連絡、協力をするために務めさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

平成 27 年度 幹事 彦坂 章代（1 年）

27 年度の幹事を務めさせていただくことになりました、1 年生保護者の彦坂と申します。

息子は陸上が好きで、箱根駅伝や東京オリンピックにかかわりたいと一般入試で入学しました。同級生、先輩方との力の差にかなりの劣等感を持ってのスタートとなりました。

親としてどのような風にフォローしていこうかと、実は不安でいっぱいです。

皆様からの助言、ご指導を賜りながら務めさせ頂きたいと思えます。よろしくお願いいたします。



平成 26 年度会長 退任の挨拶

平成 26 年度 会長 加藤 博志

「会長退任にあたって」

平成 27 年 5 月 30 日

このたび私儀 5 月 30 日をもちまして、日本体育大学愛知県保護者会会長を退任することとなりました。就任中は皆様方からの温かいご支援とご協力をいただきまして、無事終了できましたことを心からお礼申し上げます。

思い起こせば、4 年前、息子が日本体育大学にお世話になることとなり、東北関東大震災直後ということもあり、日本体育大学愛知県保護者会支部総会に出席したことが愛知県保護者会の役員に携わるきっかけとなりました。3 年間は副会長として、最後の 1 年間は会長として重責を担う立場となりました。何の取り柄も無い私に会長職が務まるのかなと不安になりながらの 1 年間。頼りない私がこの 1 年間会長職を務めることができましたのも、副会長をはじめ役員の皆様のご協力によるものです。本当にありがとうございました。

私にとってこの 4 年間は、色々な経験をさせていただき、貴重で意味のある 4 年間となりました。一番に感じたことは保護者の皆様には積極的に保護者会に関わって欲しいということです。遠く離れた子供たちの情報がいち早く入手できる場として、又、保護者同士の情報交換の場として保護者会が一つのきっかけになればと思います。息子は日本体育大学を卒業しましたが、日本体育大学の一ファンとして、私は今後も携わっていきたいと思います。



[加藤博志前会長](#)



[懇親会で加藤前会長を囲んで](#)

本年度も高野会長をはじめ役員の皆様を中心に子供たちのための保護者会活動が充実できますよう保護者の皆様方のご協力をお願い申し上げます、退任の挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。

平成 26 年度愛知県保護者会 会長 加藤 博志



退任役員 の 挨拶

平成 26 年度 監査 岩瀬 幹生

「監査退任にあたって」

三年間お世話になりました。

思えばずいぶんと短い間であったような気がします。息子が一年生の時は、保護者会の総会にも出ることは出来なかったのですが、二年生のときは、出席することが出来、しかも役員を引き受けさせていただきました。やはり大学のことも知りたかったですし、息子の環境のことも知りたかったからです。この、役員活動を通して大学の在り方も知ることが出来ました。

どこの大学であれ、良いところも思わぬところもありますが、この父母の会の活動は皆さん熱心で、感心するばかりでした。父母の会のあり方もこの3年の間に大きく変わり、活動も資金的に制限される事態へとなっています。でも、少ない資金でも真剣に行っています。ここまで活動的な父母の会は他大学ではみられないことだと思います。役員の方はもちろん、そうでない方も今後もこの活動を大いに盛り上げていただきたいと思います。

平成 26 年度 幹事 鈴木 一夫

「保護者会 幹事退任ご挨拶」

四年前に保護者会役員に就任し、あっという間に退任する時期を迎えることに感慨深いものがあります。特に保護者会事務局の協力を仰ぎながら一年目最後に開催された竣工直後の「世田谷キャンパス」見学会、四年目の「健志台キャンパス」見学会、毎年秋の「熱田神宮⇒伊勢神宮駅伝」の行事が子供たちの闊達な学生生活の一端をみるようで強く印象に残っています。

また、役員全員の「和」のおかげで何とか脱落せずにここまでこれたと本当に感謝しています。

これから役員に就任がきまった皆さん、大学の生活情報、就職動向など生の声を聞ける貴重な機会です。心配しないで残った役員と一緒に盛り上げていってください。

短い挨拶となりましたが、退任挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。